

# 令和4年度 観光・国際交流部組織目標

<b>組織名</b>	観光・国際交流部	<b>部長</b>	観光・国際交流部長 上村 洋
<b>組織の目的・方向性</b>	新潟の魅力と拠点性を生かした誘客活動を積極的に展開するとともに、姉妹・友好都市をはじめとする世界の都市との交流を通じて交流人口の拡大を図り、本市の拠点性向上と地域経済の活性化につなげます。		

## 観光・国際交流部組織目標

<p>ポストコロナを見据え、持続可能な観光への取り組みを進めます。</p> <p>来訪者が安心・安全に観光できる体制づくりをはじめ、県内外自治体との広域連携によるエリアとしての誘客推進、観光コンテンツの磨き上げや掘り起こし、効果的な情報発信、観光面からSDGsに貢献できる仕組みの構築などに取り組みます。</p> <p>国際交流では、ウクライナ避難民の受け入れとサポートを最優先事項として取り組みます。</p> <p>以上のことから、次の4つを目標として重点的に取り組みます。</p> <p><b>重点目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界遺産登録を見据えた佐渡市との連携を強化し、誘客推進とおもてなし態勢を充実させます。</li> <li>2 来訪者の満足度やリピート・消費意欲向上のため、各区と連携し、地域資源の磨き上げや掘り起こしを行います。</li> <li>3 新・新潟駅観光案内センター(令和5年度供用開始予定)の整備を進めます。</li> <li>4 ウクライナ避難民が新潟市で安心して暮らせるよう、サポート体制を整備します。</li> </ol>
--

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

## 評価

	重点目標の達成状況	目標数	4	達成数	3
<b>取組結果</b>	<p>持続可能な観光に向けては、佐渡市との誘客交流連携協定締結やJR東日本と連携した観光キャンペーン実施など、佐渡・新潟エリアとしてのおもてなし感や世界遺産登録に向けた機運の醸成を図ったほか、教育旅行プログラムを活用した修学旅行の誘致をはじめ、新たな需要の掘り起こしに取り組みました。</p> <p>ウクライナ避難民は、全庁的な協力体制構築により受け入れを進め、安心して日常生活が送れるようサポート体制を整備しました。</p>				
<b>今後の方向性</b>	<p>新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、令和5年5月に「5類」へ移行する見込みであり、また、令和4年度末からクルーズ船の寄港が再開するなど、国内のみならずインバウンドについても局面が変化しています。</p> <p>令和5年度は、新・総合計画に掲げた政策の2本柱である「持続可能な観光の推進とおもてなし態勢の強化」及び「新潟の個性・魅力と拠点性を活かした誘客の推進」に官民一体と自治体連携を一層強化し、交流人口の拡大に向けて取り組みます。</p> <p>国際交流は、引き続き国際情勢を注視しながら、可能な対面交流を復活させるなど、姉妹・友好都市と信頼関係を構築していきます。</p>				